

平成19年10月21日（日）

「ふるへ ゆらゆらと」

音祝ぎ 舞祝ぎ 事解ぎて
神も鬼も ゆらゆらと
ふるへ ゆらゆら
ゆらゆら ふるへ

祭りて真釣り
祭りて魔釣り
間つり 綾なし ゆらゆらと

人から神へ 神から鬼へ
鬼から神へ 神から人へ

音祝ぎ 舞祝ぎ 事解ぎて
神も鬼も ゆらゆらと
ふるへ ゆらゆら
ゆらゆら ふるへ

生きては死して
死しては生きて
生命 彩なし ゆらゆらと

人から神へ 神から鬼へ
鬼から神へ 神から人へ

ふるうて ふるひて
とこしへに

ふるうて ふるいて
あまた いやさか

先日、伊勢の猿田彦神社主催「猿田彦大神フォーラム」での奉納公演「サルタヒコ」に、石笛・龍笛奏者として出演させていただきました。

島根県石見神楽の儀式舞、そして舞台転換後の、渡守希（とりのぞみ）さんの新作は、見るものを圧倒的な迫力とともに、幽玄なる神秘の世界へと誘っていきます。ほとんど即興でその場に臨んだ私は、笛を奏でながらも彼女の神がかった舞に、そして場に放たれていく妖かしと神々しさと、光と闇のエネルギーに呑み込まれていく感覚を何度も味わいました。

彼女の感性とこの力作に、鎌田東二先生や他の有識者の方々も絶賛…

私も、この素晴らしいご縁にただただ感謝しかありません。

当日お越しいただいた皆さま、スタッフの皆さま、そして渡守様、共演者の皆さま、本当にありがとうございました。



※渡守 希さんの活動情報は、こちらをご覧ください。
http://blog.livedoor.jp/curriculum_blog/

copyright 2007 Yakabe office. All rights reserved.

平成19年7月11日（水）

「光と音の饗宴」

龍の鳴くは その誉れ
龍の舞うは その称え

光鳴りて光成り

天道（あまち）開きて 神宝を賜う

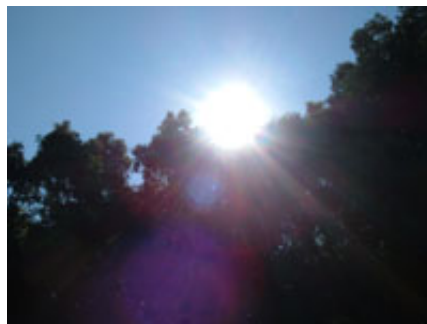
皆々喜楽（えらぎ）して 神々その光を増す

その幸音（さちおと）に
その幸光（さちひかり）に

龍も人も神も その誉れを称う

美（うま）し 清し 潤わし…
満ちし 開きし 成りし…

先日8日は東京での「音と瞑想の会」。
たくさんの方にご参加いただき、ありがとうございました。
また、快くゲスト参加をお引き受けいただいた、日景裕子さん、石塚麻実さんに感謝申し上げます。
日景さんのシンギングボウルとチベタンベル、石塚さんのクリスタルボウル、そしてインディアンドラムに石笛と祝詞（音霊）のコラボレーション……
即興でしたが、祝福の光に満たされた寿ぎの宴となりました。
ご縁のありました皆様さまに、本当に感謝申し上げます。
ありがとうございました。



平成19年8月12日（日）

「遥かなる風」

古の脈動が今 蘇る
遥かなる 風とともに…

ああ… 大輪の花が咲く…

常春の芳しき泉の 潤下に
今 私は 風をつかむ…

そう 私は 龍…
白の光を放つ 金色の龍…

今 私は 遥かなる 風…
今 私は 夜明（あかとき）の 音…



8月5日、大阪は淡路の地で行われました
AZAMIライブ～遥かなる風、
沢山の方々にお越し頂きましたこと、
本当にありがとうございました。
心より、感謝申し上げます。
スタッフの皆みな様に、
そしてたくさんのご神縁による出会いに、
ただただ感謝申し上げる次第です。
皆様、お一人お一人の想いに感謝いたします。
ありがとうございました。

平成19年4月10日（火）

「一絶の音」

先天の配剤は はじめから そこにありました
そしてそれは はじめから 音 でした
そう 生命の一切の 律動を携えた 一絶の音が
一瞬に はじめから そこに あったのです

私は今 こうして静かに 目を閉じましょう
その原初の風が 今 私を吹き抜けていくのですから

ああ 私もまた 天の配剤
ああ 私もまた 一絶の音…

永遠なる静寂と 永遠なる響きが
原初から原初へ 根源から根源へ

こうして波紋となって こうして波音となって
こうして波光となって こうして私となって
永遠に紡がれて いくのです

私は今 こうして静かに 笛を吹きましょう
生命の一切の 律動を携えた 一絶の音を

そう 渾身の生命の力で
そう その永遠の一瞬に

天の配剤の祝福に 渾身の祈りとともに
一絶の 音を…

先日、渋谷のトリニティで行なわれました、音の宴～
チャリティーコンサートに沢山の方々にお越し頂きまし
たこと、本当にありがとうございました。心より感謝申
し上げます。

スタッフの皆みな様に、そしてたくさんのご神縁による
出会いに、ただただ感謝申し上げる次第です。

既に収益金の一部金は世界の恵まれない子供達への支援
金とさせていただいたこととです。

<http://daien.senkouji.com/>

皆様、お一人お一人の想いに感謝いたします。



平成19年5月6日（日）

「古事（ふること）の音」

先古事(ふること)の音 禍事(まがごと)を祓う
古事(ふること)の波 吉事(よごと)を開く
満ち月の艶なる光に 水の音 石の音…
満ち月の妙なる調べに 水の波 石の波…



その音律に その鏤刻に 龍が鳴きてたゆたう

満ち月の魔の術(すべ)に
水と石の条理(あや)に
音と波がたゆたい 龍と成る

龍 天楽と鳴りて 天(あま)地(つち)を祝ぎ
人 天(あま)地(つち)を抱きて自らを解ぐ…

音祝ぎ 事解ぎ 寿ぎ…

満ち月の艶なる光に 水の音 石の音…
満ち月の妙なる調べに 水の波 石の波…
古事(ふること)の音 禍事(まがごと)を祓う
古事(ふること)の波 吉事(よごと)を開く

5月2日の満月の夜、波音セラピスト、石塚麻実さんの
クリスタルボール演奏会にゲスト出演させていただき、
クリスタルボウルと石笛、龍笛との初のコラボレーショ
ンを行いました。

クリスタルボウルの音に、うっとりとうきながら龍笛を
奏でさせていただき、私自身もすっかり平らげてしま
いました。

皆様と素晴らしい癒しと寿ぎの空間を共有できたこ
と、ただただ有り難く感謝しかありません。

このご神縁とお引き合わせに、感謝申し上げます。

皆みな様、ありがとうございました。

平成19年6月3日（日）

「千秋万歳（せんしゅうばんぜい）」

神造る斎庭に
神迎いの神楽の音を濯ぐ

真榊の称えに
神祝ぎの恵美の音を満たす

千早の風の祓いに
富幸（とみさか）を祈りて

香り立つ神の潤下に
御恵（みめぐみ）を祝ぐ

千秋万歳 千秋万歳



先日は私が古神道と合気道の修行でお世話になっている、山蔭神道上福岡斎宮の大祭でした。
今年も、有り難くも伶人（楽を奏でる役）のお役をたまり、
神称えの音にて弥栄をお祈り申し上げました。

私はさらに、身を削ぎます。
私はさらに、身を捧げます。

音を奏じながら、私は言挙げしました。

魂が神に曳かれていく悦びとともに。
その喜びの切なさとともに。

私が、音と鳴りますように…
私が、音に成りますように…

平成19年1月21日（日）

「明日への祈り～巡り」

沈みゆく太陽があまりにも美しいのは

それが明日への祈りだからだ

一つ終わるたびにまた一つ始まる

永遠の巡りの中で生命が彩られていくように

そしてそれが明日への祈りの弥栄であるように

終わりとも始まりもまた結実へのことほぎなのだ

そう 私もまた巡りの中の生命の彩りなのだから

自らもまた環となりて永遠を結んでいく

そう 私もまた終わりとも始まりの寿ぎなのだから

何度でも蘇るのだ

明日への祈りという終わりとも始まりの標（しるべ）として…



平成19年3月5日（月）

「祈りの宴」

真榊の風にて 祓うがごとく その音を放つ
真清の泉にて 禊ぐがごとく その舞いを紡ぐ
真澄の理にて 祝ぐがごとく その唄を宣る

天津宮を寿ぎ 国津宮を称う

光の御柱の内にて 神も人も鬼も 和して解ぐのだ

美鈴振りなし 幸音降りなし

この弥栄を この永久なる寿ぎを
神宝蒔きて 天地を潤すがごとく

音を放ちて 舞を紡ぎて 唄を宣りて

風と泉と理の笑美の 神つくりの内にて
神も人も鬼もあまやかに満ちていくのだ

真榊の風にて 祓うがごとく 今 その音を放とう
真清の泉にて 禊ぐがごとく 今 その舞いを紡ごう
真澄の理にて 祝ぐがごとく 今 その唄を宣ろう

2月25日、ガネーシヤにて行なわれましたAZAMIコンサート「月の神秘と太陽の祈り～with矢加部」に、大勢の方にご来場いただきましたこと、本当にありがとうございました。

皆みな様とともに、弥栄と寿ぎの光を織りなすことが出来ましたこと、心より御礼申し上げます。



平成19年3月22日（木）

「期待」

先日、トラックらしき大型車のけたたましいクラクションと急ブレーキの音、それに続くドーンという衝撃音が、部屋にいた私を驚かせました。

当然これは事故だと思い、窓から外を覗きしましたが、その様子がかがえません。

我が家は幹線道路に面しているため時折事故を目撃します。

丁度、外出の直前だったので、そのまま外に出て駅に向いますが、どうやら事故は発生していなかったようです。

おそらく、急ブレーキをかけた際に、荷物がその衝撃で荷台の上でどこかにぶつかったのでしょう。

そのままその車は何事もなく走り去って行ったようです。

私は、気づきました。

事故を期待している自分がいるということ。

それも出来るだけ、悲惨な事故を…

なんだ何もなかったのかと少しがっかりもしたりしました。

いや、きっと、かなり、がっかりしたのかも知れません。

ああ、もしかしたら私は、世の中の、世界の悲惨な出来事を期待している…

いや、確実に、正しく、それを期待している…

世界から悲しい出来事が無くなって欲しいと願いながら、世界平和が実現して欲しいと祈りながら、それとは全く逆の期待を…

あらこちで起きている世界の悲惨なニュースを、連日報道される陰惨な事件を、もう、うんざりだと思いながら、案外、嬉々として目をこらして見聞きしているのかもと…

そう、案外、嬉々として…

どんなことになったのだろうと…

これから、どうなるのだろうと…

そう、期待、しながら…

マスコミは、ニュースは、その私の期待に応えるように連日悲惨な出来事を、これでもかと流し続けます。

私の心の中に、その期待がある以上、私の生きている世界から、悲惨な出来事は無くならないのかも知れません。

さて、どうしたものか…

愕然と、そして半ば苦笑いをしながら私は駅に向いました。

さて、どうしたものか…

